NO.78
2023/5/12

バンコク便り

１．はじめに

4 月は例年を上回る猛暑となったタイですが、暑さもピークを超えて、5 月中旬頃からは雨期が始まる見込みです。雨期とはいえ、湿気で暑く感じることやスコールもありますので、訪タイされる際には体調管理にご注意ください。また為替レートは 1 バーツが約 4 円となっており、アジア通貨危機直前の 1997 年 5 月以来の円安バーツ高となっております。物価上昇も加わり、モノの値段はコロナ禍前とは変わっています。

２．現地ビジネス情報（BCG 経済モデル推進によるタイ投資機会について Vol.2　B:バイオ経済）

前回ご紹介した BCG（Bio-Circular-Green）経済モデルに関し、「農業」と「バイオ技術」の現況と展望をご紹介します。

「農業」は、国土の約 40%が農地として利用され、人口の約 40%が従事するほか、GDP の約 10%を占めています。扱う作物では米、ゴム、サトウキビ、トウモロコシ、カシューナッツ、果物、野菜など多岐にわたる中で、サトウキビが注目されています。サトウキビからはバイオエタノールが生産でき、政府が奨励していることもあって、多くのサトウキビプランテーションやエタノールプラントが建設されています。バイオエタノールを生産することで、農民にとっての経済的な利益が増大するとともに、環境問題の解決に資すると考えられ、余剰分は国外に輸出することで ASEAN 地域全体のエタノール需要にも対応する大きな産業になると期待されています。こうした動きは日本とも関係が深く、例えば日本政府は「2030 年に航空会社による航空燃料使用量の 10%をバイオエタノール等由来の燃料＝SAF に置き換える」との目標を掲げています。また、商社の動きでは、住友商事がタイ国営石油 PTT 傘下のバイオケミカル製品メーカーが製造したバイオエタノールを SAF として活用する事に取り組んでいるほか、双日は「3 年以内に SAF 生産開始」を目標として、タイ現地のパートナー企業との交渉を進めています。

「バイオ技術」は、遺伝子組み換え技術やクローン技術などの最先端技術や発酵食品、醸造酒の製造などの伝統的な技術に加えて、農林水産物の生産やバイオテクノロジーを活用した商品の生産など幅広い領域になっています。外国企業への依存が強く、日本のタケダ、アステラス製薬、明治グループ、欧米のアストラゼネカ、ファイザーなどがタイで大きな存在感を持っています。しかしながら、タイの企業も技術力を発達させており、独自のポジションを築いています。日本企業等と比較すると規模は小さいものの、売上高の年間成長率が平均 10%を超える会社も多数あり、バイオ企業とその技術の成長は将来的にもタイの強みの一つと言えます。ただし、①動物細胞培養による高品質のバイオ医薬品の生産、②遺伝子療法による遺伝子疾患の治療、③人工臓器の開発、④食品用の植物の遺伝子組み換えによる生産性の向上や栄養価の改善、⑤ゲノム編集技術を利用した植物や動物の品種改良の技術等はタイ国内においての実現は難しいとされており、これらの技術は国内のバイオテクノロジー企業のさらなる育成や、外部研究機関や企業との連携による実現が期待されています。

３．現地トピックス（水掛祭り　4 年ぶりに本格開催！）

4 月 13 日より始まったタイ正月ソンクラーンでは各地で大規模な祝賀イベントが開催されました。水掛祭りで有名なスポットであるカオサン通りやシーロム通りではコロナ禍前の様に非常に盛り上がりました。

このお祭りを目当てに多くの外国人観光客も訪れており、写真にあるように大勢で水掛けを楽しめたのは実に 4 年ぶりとなります。

水掛け祭りの際はほとんどの人がマスクを外していましたが、ソンクラーン後には何事も無かった様にマスク着用の生活に戻っています。日本の水際対策も終了した今年こそは、ぜひタイへの渡航を検討されてみてはいかがでしょうか。

多くの人で賑わう水掛け祭り

【本件に関する連絡先】　荘内銀行営業推進部　地方創生室　軽部・齋藤　023-626-9050